

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」
「組合員への助成活動レポート」

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	星つむぎの村
支援対象者・エリア	宮城県名取市、石巻市
企画開催地	宮城県名取市、石巻市
企画名称	星空を届け隊 2022
実施期間	2022年10月1日(土)、2日(日)

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

星つむぎの村は星を通して人と人をつなぐ活動をしています。被災地の皆さんに星を見上げることで心も上向きになって、明日への活力につながるお手伝いをしたいと考え、現地でプラネタリウム、観望会、星に関する工作を行っています。

今年は3年振りに宮城県へ行くことが出来ました。感染対策として、スタッフ全員の抗原検査またはPCR検査を行い、参加者を含めた全員の手指消毒とマスク着用の徹底、参加者には感染発生時のみのための連絡先の記入をお願いし、プラネタリウム内は定員の半分の人数で換気を十分に行いました。

参加者の方がプラネタリウムで満天の星や宇宙を観た時に思わず出る感動の声、星に関する工作を作りながら交わす何気ない会話、観望会で目の前に見えている星の拡大した姿に感動する様子！全て一緒に過ごすからこそ参加者の皆さんの心の動きがわかる瞬間の数々でした。やはり、感動が直にこちらにも伝わってくるのは、対面の良さだと実感しました。今年はスタッフの数が多かったので初めて星に関する紙芝居や本の読み聞かせも取り組みました。受付が終わった後、各イベントの準備が出来るまで参加者に随時集まってもらい、お話に耳を傾けるほっこりとした時間が作れました。

現地のイベントをまとめてくださる遺族会の方から、今年は地域の方に遺族会と星つむぎの村の活動を知らせてもらうことに重点を置きたい、「遺族」を出すと誰も来ないという気持ちを大事にして行いました。

当日公民館の2階で太鼓の練習をしていた人達やご近所の新しく引っ越してこられた若いファミリーが沢山訪れ、目標は達成されました。ただ、終わった後の遺族会の方の感想としては、他の地域から何組か遺族の方もいらしてくれたのですが、あまりにも元気に飛び回るお子さんが多すぎて、ゆっくりと亡き人を思い出すことが出来なかったと感じたようです。それで来年は1部と2部で内容や集まる人を限定して、遺族の回・ご近所とのつながりを作る回に分けましょと意見が出ました。さらに、これからは「あの日」の閉上を知らない新住民の方に対して、震災時の閉上を語って知ってもらう重要性についても述べられていました。

また、被災された場所で、大切な家族を亡くされた遺族の方から直接、どのようなことが起こったのか、どのような心情だったのかをお話いただき、私達の心に大きくずっしりと響きました。亡くなったご家族がここに生きていたこと、その時の幸せな記憶、悲しみを繰り返さないためにはどうしたら良いのか、私達の生活の中に同じような自然災害が来たときにはどうするかを考える大切なきっかけを頂きました。

活動の様子(写真など)



プラネタリウム前で



星座カード



丹野さんの講演会



流れ星ロケット



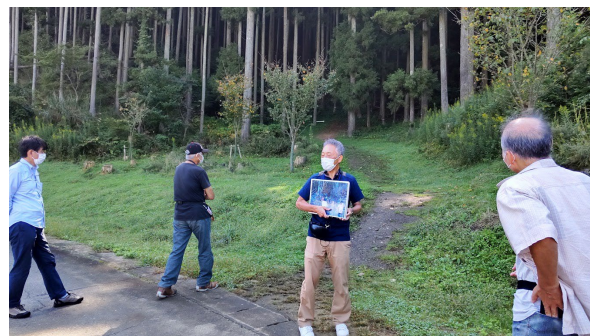
クロススターモビール作り



感想ボード



夜の観望会



大川伝承の会 鈴木さんのお話

※本レポートに掲載された写真はパルシステム東京ホームページ等で公開させていただきます。予めご了承ください。